

# DAICHU news

弊社の様々な出来事を発信してきます！！

## 施工事例

### before



#### 家屋解体工事 木造 2階建 2棟

歩道に面し、お隣の家とも距離が近かったため、警察に道路使用許可、環境センターに特定建設作業実施届を提出し近隣の方に配慮致しました。

2棟分で大きいですが、二週間で施工完了いたしました。

建物がなくなると、「すっきりした」や「ここに住んでたと思うと感慨深い」など施主様からは、いろいろなお声を頂きます。



### after



建物の高さに合わせて養生し、  
防音・粉塵対策を行っております。  
自社ブランドのマークが目印です☆



こんにちは！暑さが本格的になり、夜エアコンなしでは寝られなくなってきました。現場の職人さんたちは熱中症対策に空調服を着用して気を付けて作業をしてもらっていますが、暑さにはなかなか勝てませんね。



社長with空調服

## ～ 全体会議 ～



7月22日に社内全体会議を行いました。  
今回の会議では、社員それぞれが今期目標の進捗を発表しました。発表した中から、仕事目標とプライベート目標でそれぞれ良かった者へ投票しました。

その結果一番投票数が多かったのは、、、  
仕事目標は、売上目標を達成した 営業部 白崎  
プライベート目標は、彼女を作る目標を達成した営業部 小木曾

この二人には、社長から金一封が送られました！！



白崎



小木曾

上半期が終了し、8月から下半期に入ります。  
皆で声を掛け合い上半期以上に社員一丸となり、今期の目標が全従業員が達成できるようにします。

達成できた社員も現状で満足せず、向上心を持ち取り組んでいきます！！



田島作



# 解体工事の歴史

解体工事の名前の由来、解体工事っていつの時代から行われているかご存知ですか？

実は、遠い昔の話ではないのです。時代の流れと共に変わっていった歴史を感じてください！  
雑学王への一歩として、ぜひご覧ください☆

①江戸時代は、火事が起こると近隣の家を壊し、火が広まらないようにしていました。そのため元々壊すことを専門に行う業者はなく、とび職や大工が解体工事を行っていました。

鷹職や骨組みを壊し、大工は内装を壊す分担制でした。

④大正3年に大正博覧会が東京で行われた際、大規模な建築物が数多く建てられた。このような大規模な建築においても「壊し屋」は木材を1つも余すことなく解体し建物のすべてを古材として再利用していました。

このような解体方法が戦前まで安定的に行われていました。

⑥戦後、空襲によって焼け野原が広がり、木造解体の仕事は激減した。そのため、空襲を免れ使わなくなった鉄骨造倉庫の解体の仕事を行うようになった。当時鉄鋼は非常に貴重な資源であり、年に1、2件この仕事があれば1年の収入には困らなかった。この仕事を10年ほど続け解体業の存続を図った。その後は、木造解体の仕事を再開し、時代と共に鉄骨造も増えていきました。

しかし、材料を取り出し再び再販して使うスタイルは受け継がれていました。

江戸時代

明治時代

大正時代

昭和

②建物の取り壊しを専門に行う業者ができたのは

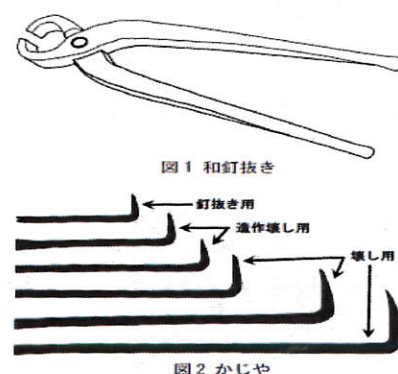
**明治初期頃**

江戸幕府の倒幕と共に大名の権利が落ちていきました。そのため大名は所有していた土地を運用できなくなり土地を売りに出しました。

そして、その土地を買い、新たな建物を建てる者がでてきたのです。

しかし、当時は木材が高級且つ不足していたため、木材は非常に貴重なものでした。そのため、既存の建物を壊して調達するしか家を建てる方法がありませんでした。

当時は壊して建てる人たちは「**壊し屋**」と呼ばれていた。



③その為中古木材の需要は高まり、中古木材を売買する市場が確立されていきました。市場で中古木材は新材の7割程度の価格で取引され、木材に傷がつくと価値が落ちるため建物を壊す際には木材を傷つけない方法で壊される手法が取り入れられました。

具体的にはノコギリ等の刃物を使用しない為、新しく材料を気づけない道具(図1、図2)が開発され建物を壊す際には請負金をもらうのではなく、お金を支払って建物を買い、木材や建材を売ること、設けるという手法だった。

⑤戦時中、国の政策により「火事防止のために東京を区画整理する」という提案がされた。その時に壊し屋の組合の立ち上げもなされました。

当時の行政は、壊し屋は荒々しく壊すと思っていたが、課長室をを解体し即座に元通りに組み直した。

行政はその手際の良さや丁寧さから、壊し屋ではなくほかの名前にしようと模索された。軍の大佐の体を解す(ほぐす)という意味を込めて「**解体**」という言葉が生まれました。

⑦昭和後期～平成

次第に古材が売れなくなり、解体工事の機械化にともない、材料を古材として売るといった目的の解体業者は姿を消しました。

現在は、壊して出たもののほとんどをリサイクルし環境に配慮した解体を行っています。



株式会社 大中環境

〒494-0012 愛知県一宮市明地字山中25

TEL 0586-69-1988

FAX 0586-69-1987

E-mail daichu305@nifty.com

HP <http://www.dc-env.com/>

<http://www.jiban-kairyo.jp/>

- ・総合建物の解体業
- ・地盤改良業
- ・造成工事業
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・一般廃棄物収集業

